スポットライト
～地域で頑張る人たち～
No.11

街を越えて「まちに光を、人に光を、未来に光を」

東西くしら盛りup（アップ）会

地域おこしに取り組むグループは市内に多くありますが、東西くしら盛りup会は異色の存在。鹿屋市（串良町）と東串良町のメンバーが自治体の境を越えて集まり、「東西くしら」のまちづくりのために活動しています。年齢も職業も、住む街もまったく違う約20人のメンバーは、公園等の草刈り作業などで活動資金を工面し、両地域の活性化と交流促進のためのイベントを開催しています。

今年で5回目の開催を迎える「ヒカリバシHOUEI（ほうえい）」は、両地域を結ぶ豊栄橋を、12月から来年2月までイルミネーションで彩るとともに、12月3日の点灯式では豊栄橋を歩行者天国にして、橋の中央の町境で1年間の橋の領有権を賭けた「町境つなひき合戦」が行われます。このほか、メンバーの職業や得意分野を生かして、重機操作体験やうなぎ放流体験など、多数の体験型イベントが開催されます。

取材したこの日は、各メンバーごとのイベント準備状況などの確認や、活動資金確保の一環の募金箱づくりを実施。多忙な中集まったメンバーを代表して、出水澤直志（いずみざわなおし）さんはこう語ります。

「小さなことでも、自分たちでできることからはじめました。自分でできないことは職業・地域などを越えて仲間を作って、子どもたちが『ここに住みたい、帰ってきたい』と思えるまちを目指して活動を続けていきたいです」

メンバー手作りでイルミネーションを設置。その資金を得るために実施する草刈り作業。メンバーを動かすのは、地域への想い。

メンバーの苦労の結晶、「豊栄橋イルミネーション」。東西くしらを結ぶ架け橋が光で彩られたとき、メンバーは無上の喜びを感じる。

出水澤会長を中心に定期的に会議を開催。メンバーは真剣なまなざしで熱い想いを口にする。

編集後記

認知症支援や障がい者ボランティアはまさに人の「支え」。「支える」という言葉には、重みと温かみを感じます。どんな人であっても、この世に生を受けてから、多くの「支え」があって今があるのでしょう。いい言葉です。（前田）

今号が皆さんのお手元に届くころは、Beaujolais nouveau（ボジョレー ヌーヴォー）の解禁時期。フレンチでは大体コース料理とソムリエさんお勧めのワインなので、いつの日か、アラカルトの料理に銘柄指定のワインで楽しめるようになりたいです。（原田）

鹿屋に住んでいると気づきにくい「鹿屋の魅力」。農家民宿に泊まって体験すれば、その答えが見つかるかもしれません。農家民宿や民泊をされる人は魅力的な方ばかり。「人」こそがまちの魅力なんだと、改めて実感します。（田嶋）

✂キリトリ線

お便り＆メッセージ

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。